

## 小松・ゲイツヘッド友好の翼交流事業

石川県小松市国際都市こまつ推進センター

### 交流のはじまり

人口約11万人の小松市は、4つの姉妹都市および3つの友好交流都市をもち、各都市とそれぞれに特徴をもった交流を展開しています。国際化社会を迎えて、観光やビジネス、スポーツなど幅広い分野において世界で活躍できる人材の育成を第一に考え、さらにまちの魅力を高め、北陸をリードする国際都市を目指しています。

小松市とイギリス・ゲイツヘッド市は、1991年に姉妹都市提携を結びました。交流のきっかけは、小松市長ほか6人の使節団が姉妹都市ベルギー・ビルボード市を訪問する途中で株式会社コマツの現地法人英国コマツと、所在地の自治体ゲイツヘッド市を訪問したことです。その後、ゲイツヘッド国際庭園祭において6月10日が小松DAYと定められ、茶道親善視察団が茶会を開催すると共にゲイツヘッド市の有力者と交流したことで、姉妹都市提携への機運が高まりました。姉妹都市提携調印式は、ゲイツヘッド市議会議事堂で、英国伝統の儀式にのっとり行われました。

以降、芸術文化や青少年交流などを続け、姉妹都市関係は2011年に20周年を迎えました。

### 小松・ゲイツヘッド友好の翼交流事業

現在、「小松・ゲイツヘッド友好の翼交流事業」が姉妹都市交流事業の中心となっています。当事業は、姉妹都市提携を締結した年からはじまった中学生・高校生による相互交流事業です。両市の友好交流の促進と青少年の健全育成を目的として、青少年と引率者で構成する訪問団の派遣・受け入れを交互に行うものです。引率者は例年、教員と市役所職員から1人ずつ選任されます。7月

の約2週間の期間中、学校交流やホームステイなどを通して、文化や言葉の違いを超えた交流を図ります。今年で23回目となり、参加した青少年の数は両市で300人以上に上ります。

2013年度は、派遣の年であり、小松市の中高校生8人と引率者2人で構成された計10人の団員がゲイツヘッド市を訪問しました。滞在中はパートナーの家でホームステイをしながら、姉妹校への訪問、英国コマツや姉妹都市提携20周年記念として寄贈した日本庭園の見学、エディンバラでの合宿などのプログラムをパートナーと共に行いました。



ゲイツヘッド市・「北の天使」のもとで両手を広げる小松市団員

例年派遣前には事前研修を計5回行い、英語コミュニケーションのスキルアップ、フェアウェルパーティー（お別れ会）で披露する日本文化パフォーマンスの練習などを行っています。団員の協調性を高めることと団員同士の結束を強固にするため、市内の青少年研修施設での合宿も実施しています。団員がお互いにパートナーへ向けて手紙を書き、両市担当者を通じてやりとりを行うことで、派遣前の不安を楽しみに変えるという試みも行っています。派遣中は、保護者の不安を解消

するため、小松市担当がゲイツヘッド市担当者および小松市引率と連携し、団員の様子ができるよう写真を添付し保護者へ報告メールを送信しています。保護者からは、「とても安心できました。また楽しみでもありました」という感想をいただいています。

2014年度は、受け入れの年であり、小松市団員が1年ぶりに再会するパートナーのホームステイを受け入れします。姉妹校訪問、コマツ粟津工場や姉妹都市提携10周年記念として寄贈された小松・ゲイツヘッド友好の庭の見学、文化体験、合同合宿などのプログラムをパートナーと共に行います。日程を組む際は、小松市が掲げるまちづくりの4つのテーマである、「歌舞伎のまち」、「乗りもののまち」、「科学と交流」、「環境王国こまつ」を体感してもらえよう努めています。小松市国際交流協会に登録されている通訳や文化体験のボランティアを積極的に活用し、市民一体となって事業を実施しています。毎回、フェアウェルパーティーでは、サプライズとして最後に、受け入れ時の思い出を振り返る写真スライドショーと小松市団員からのビデオレターを上映しており、両市団員から好評を得ています。



小松市・パートナー同士で伝統工芸九谷焼の絵付けに挑戦

派遣と受け入れの間にあるクリスマスに合わせて、毎年12月には両市代表と青少年訪問団員の友好を深める機会として、インターネット回線を使い、オンラインミーティングを開催しています。2部構成であり、第1部は両市代表者のあいさつ、第2部は団員同士の会話となっています。当日は、

クリスマスの雰囲気を出すために、両市の会場にツリーを置き、装飾を行っています。



毎年12月の恒例行事であるオンラインミーティングの様子

## 事業の成果、今後の展望

当事業に参加した小松市団員からは、「価値観が変わった」、「英語を勉強するモチベーションが高まった」、「将来の夢が決まった」、「今まで当たり前と思っていた日本の良さに気付くことができた」という感想をいただいています。また、大学生になった小松市団員が、仲間でゲイツヘッド市へ旅行に行き、パートナーやホストファミリーと再会したという報告や、大人になっても交流が続いているという報告も入ってきています。

2013年度からは、両市の高齢者同士の芸術交流実現に向け、小松市シルバー人材センターで行っている和紙ちぎり絵教室の生徒さんの作品を、ゲイツヘッド市内にある高齢者慈善団体施設へ届け、同時に小松市団員と、ゲイツヘッド市内の高齢者による影絵作品づくりや、交流を行ってきました。来年はゲイツヘッド市団員が、シルバー人材センターで高齢者と一緒に芸術活動を行う予定です。また、小松市の高校生を1年間ゲイツヘッド市へ派遣し、ゲイツヘッド市の高校生を1年間小松市で受け入れするという年間留学制度の実現に向けて、検討も行っています。

今後も、当事業を常に進化・発展させていくことにより、グローバルな視点で海外でも活躍できる人材を育成していきたいと思えます。そして、両市の友好の庭のように、小松市とゲイツヘッド市の友好の花がさらに多く美しく咲き続けられるよう、尽力していきます。